

同頁掲出の晶子の詩は、日露戦争開戦後に作られたものであり、晶子の作詩の時期について、理解し難い表現である。

非戦の声がおこり、大塚楠緒子や与謝野晶子は、女性の立場から戦争の悲しみをうたった。だが、国民の中には、三国干渉によるロシアへの反感があり、開戦の声が高まった。

1904年2月、日本はロシアに宣戦布告し、日露戦争がはじまった。日本軍は、満州で苦戦を重ねながら勝利し、日

非戦の声がおこったが、三国干渉によるロシアへの反感から、開戦の声が強まった。戦争が始まると、大塚楠緒子や与謝野晶子は、女性の立場から戦争の悲しみをうたった。

1904年2月、日本はロシアに宣戦布告し、日露戦争がはじまった。日本軍は、満州で苦戦を重ねながら勝利し、日